

令和5（2023）年度

地域学校協働活動推進員養成研修① 実施報告

実施日：令和5（2023）年6月16日（金）

本研修は、地域学校協働活動推進員としての資質向上を目的として、全5回の内容で実施されます。1回目の今回は「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」と「学校と地域の連携推進セミナー」、「生涯学習・社会教育関係職員研修Ⅰ」の選択研修を兼ねて行われ、合計約50名が参加しました。

講話「地域と学校の連携・協働の必要性」

全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 大坪 直子 氏

受講者は、「地域と学校が連携・協働することの意義と期待される効果」、「地域学校協働活動推進員の果たすべき役割」、「実際の活動事例」について理解を深めることを目的として、約2時間の講話に熱心に耳を傾けました。

大坪氏からは、少子高齢化・人口減少や地域のつながりの希薄化等の地域の課題と、学力観や学び方の変化、多様性への対応といった学校の課題の双方に向き合っていくために、地域と学校の連携・協働は意義深い取組であり、地域の子どもを地域が進んで育てていくことで、将来の「住みやすい」地域を地域が自ら作っていくことができることや、「子どもも大人も育ち合う」ことにつながる取組であることについて説明がありました。また、地域学校協働活動推進員の役割として基本となることを確認した上で、「学校のカリキュラムに沿う内容であること」「児童生徒の力を生かすこと」「当たり前に行われている（スムーズに行われている）こと」の理由を問い直すことといった、効果的な活動を創出するためのポイントとなる視点についても説明がありました。さらに、ボランティア人材を得るために公民館や企業、大学等との連携も考えられること、ボランティアの活動をより充実させるために心掛けることとして「役割を作ること」や「活動の楽しみを作り出すこと」があること等、活動をコーディネートする際の要点についても説明がありました。

受講者は、大坪氏のエネルギッシュな講話から、これから学校と地域の連携・協働に取り組む上で力を得た様子でした。



講話終了後には、受講者それぞれが得た学びを共有しながら振り返りを行いました。受講者は、紹介された全国の実践事例について自身の活動と照らし合わせながらその良さを確認し合ったり、新たに学んだことを生かした今後の活動のアイデアを伝え合ったりしていました。



最後に、受講者が日頃取り組んでいる「学校と地域の連携・協働」の実際を報告し合う目的で、「自己紹介カード」を作成しました。これから残り4回の研修を実施予定ですが、各地域のコーディネーター同士のつながりづくりも、ぜひ進めていただきたいと思います。



【受講者の感想から】

- ボランティア活動をコーディネートする上で、活動そのものだけでなく活動を通じたつながりづくりをしていきたいです。
- 「放課後遊び隊」の活動事例の紹介が大変参考になりました。民生委員さんと協働・協力して実行に移してみたいです。
- 自分も活動に参加したきっかけは「学校便り」の存在でした。情報発信やそのスキルの大切さ、必要性を実感しました。
- 伝統行事や文化祭、運動会等で、学校と地域、地域と地域が互いに顔の見える場を作っていきたいです。
- 実施する予定の地域防災訓練で、児童生徒がこれに自主的に関わる意欲を高めていきたいです。
- 情報をアップデートすることの必要性を切に感じました。

研修内容に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp